

# メディアと自分を意識した教科横断的な学習

(保健体育科 ダンスを軸に)

大阪教育大学附属池田中学校 教諭 三好 達也

キーワード：中学校，保健体育科，教科横断的，概念学習

## 実践の概要

今日、学習指導要領等の理念を実現するための必要な方策として「カリキュラムマネジメント」の重要性、特に教科横断的な視点からの教育活動の改善を行っていくことや、主体的・対話的で深い学びの実現が提示されており、重要視されている。本研究の目的は、中学校保健体育科のダンスを中心とした教科横断的な学習を研究し「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を開発することを目的とした。

## 1. 目的・目標

### 活用の目的とねらい

本単元では、iPad を使用し、ICT 活用の目的と狙いを以下の3点とした。

なお、単元の共通テーマとしては、ダンスの特性の1つでもある「美しさ」「魅せる」という部分に焦点をあてて学習を進めることとした。

- ①メディアからダンスに関わる様々な動きを調べ、参考になる動きを学ぶ。  
→既習の動きのみならず新たな動きを取り入れたい生徒への手立て。
- ②自己の技能を高めるためのリフレクションとしての動画撮影・分析。  
→自己の動きを客観的に分析し、踊りの質を向上させる。
- ③完成の演技を組み合わせたダンスビデオの作成。  
→他者の視点に立って客観的に分析する力が求められる。ライブで観ることと映像から観ることの違いへの気づき。魅せ方の工夫。

## 2. 実践内容

### 2.1 本単元と本時の概要

本実践は、中学3年生保健体育科の単元「ダンス」で

の実践である。本単元ではICT機器を用い、美しいダンスを演技することと、ダンスMVを制作することを単元のゴールに位置づけた。ダンスをするだけでなく、見る・知る・支える視点から考えることでより深い学びにつながる。また、音楽科、国語科、技術家庭科、英語科の学習に制作映像や音源を利用し、教科横断的な学習を展開した。音楽科では、創作の領域で、制作した映像を使って、その映像にふさわしいファンファーレを考える。自分たちが制作した映像作品に対するファンファーレを作る事で明確な意図を持って学習を進められると考えた。技術家庭科では、デジタル作品の設計・制作の単元でダンス映像の制作の経験に基づき、基本的な動画編集技能が高まっており、より工夫をこらした映像編集を行う。国語科では、「情報を編集するしかけ」の単元と関連させ、現代社会のメディアの見せ方を自分たちの制作したものと比べさせて学習させる。英語科では、ダンスで使用する音源を英語の曲にし、学習の帯活動としてダンスで使用する曲を歌わせることで慣れ親しみを持たせたいと考えた。全ての学習で、実際に経験し、制作したものを題材にすることで目的意識を持った主体的な活動につながる。また、1つの題材をいくつもの教科で使うことで教科間のつながりを生徒が意識しやすくなると考え、取り組んだ。

### 2.2 本時の実際の様子

#### (1) 導入

前時の中間発表の映像と他グループの客観的な意見を伝え、「より美しく魅せるためにはどうすれば良いのか」という課題を設定した。また、MVのように映像として見る時の効果的な映し方であったり魅せ方であったりがどういったものなのかということも考えさせながら学習を進めた。

また、本時からはMVビデオを作成するための映像も

【本時の指導略案】	学習活動	指導上の留意点
●単元指導計画（全体時間10時間 本時7時間目） (1)オリエンテーション（1時間） (2)グループで振り付けを考え、練習する。（4時間） (3)中間発表を行う。（1時間） (4)グループ毎に課題を確認し、練習、MV用映像の撮影を行う。（3時間） (5)発表会を行う。（1時間）  ●本時の目標と展開 令和元年5月 生徒数40名 目標：中間発表会で出た課題を確認し、自グループの課題を改善する練習計画を立て、練習を行うことができる。 評価/課題を改善する計画を立て、練習を行い、学習内容を踏まえた振り返りを書くことができる。（思考力・判断力・表現力等）	前時の学習を振り返り、自グループの課題を確認する。	前時の映像と、他グループからのリフレクションを提示することでより課題を認識しやすくする。 CMで使われている映像を見せ、自分たちとの違いとその工夫を考えさせる。
	課題を改善するための練習計画を立て、練習し、撮影を行う。	個々のグループの課題と改善策につながる考えが出るようにグループ別に指導する。
	本時の振り返りを行い、次々の計画を行う。	映像にした時の「魅せる」「美しさ」というものがどういったものが考えられているグループを例示する。

撮影していくことから、CM で使われているような映像も見せ、動きの質だけでなく、写し方の工夫、見せ方の工夫についても考えさせた。

**(2) 展開**

話し合いをする中で、各グループに多少のばらつきはあるものの、おおむねグループの課題が、個々の動きの大きさ、グループ全体の統一感、そして映り方の3点で絞ることができた。自グループの課題を明確にし、撮影する際の注意点を伝えた上で、グループ毎に練習と撮影を行った。場面を出来るだけ切り替えたり、アップとルーズを巧みに使い、見せ方の工夫を行ったりするグループが現れた。

**(3) まとめ**

本時で撮影した映像をグループで確認する。また、本時の学習計画を振り返り、次時以降の計画を立てる。また、撮影方法を工夫していたグループの映像を全体に共有し、より多面的・多角的に考えられるようにして本時を終えた。

**3. 成果**

生徒に、活動の計画から、実践、振り返りと全てグループごとに行かせた(写真1、2)。その結果、ゴールを見据えた逆向き設計の考え方や見通しを持った活動を生徒自身が行うことが出来るようになった。計画を立てていく中で十分に達成できなかった部分に関しては、各自が宿題で持ち帰り自主練を行う姿も見られるようになった。

「美」という概念はどの教科にも共通する部分があることを感じている生徒が多く、コンテンツベースだけでなく、コンピテンシーベースでの教科のつながりが見られた。

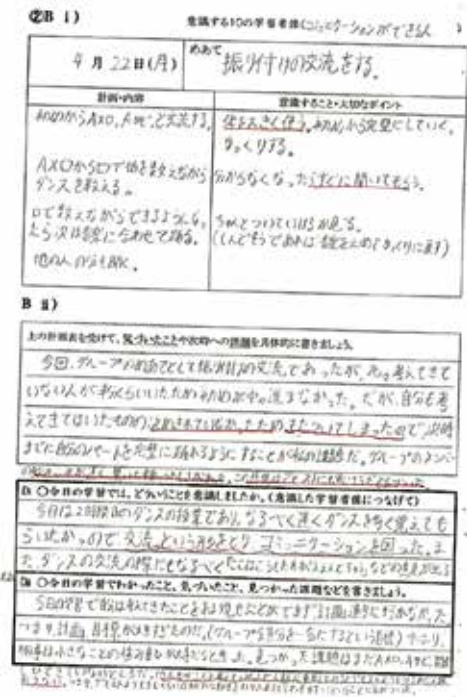


写真1 生徒が毎時間書くリフレクションシート

(実際に学習を進めていく中で、感じたことを自分の学習経験と結び付けて書きましょう。)

**-特性を踏まえたレポート**

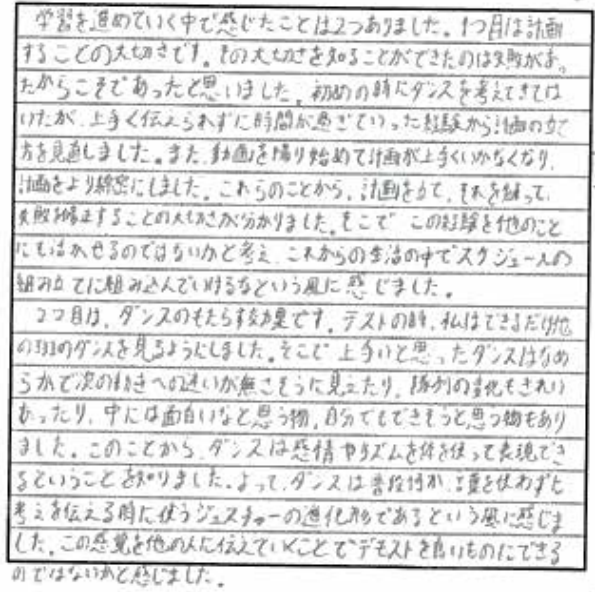


写真2 学習のまとめエッセイ

**ICT 機器の効果**

- (共有性) 自主練習をする際に、リーダーのダンス動画を1台で撮影し、airdrop機能ですぐ共有し学びを広げる生徒が現れた。
- (保存性) 授業内はもちろんだが、授業外にも学習面で利用できるところがICT機器の良さであった。また、参観日や個人懇談の際、文化祭で保護者向けの鑑賞会を行ったり、下学年の学習での例示として使用したりすることで学習のつながりを教科横断的のみならず学年縦断的にも持たせることができた。
- (即興性) 自分やグループ全体の動きをすぐに分析できる。
- (客観性) 自分を客観的に見つめることができ、メタ認知に有効であった。

**4. 今後に向けて**

課題としては、ネットワーク環境が整うことが重要である。本単元でも、一斉にアクセスするとなかなか繋がらない状況が起こったり、途中で音源や映像が停止してしまうといった事が起こったりした。また、各個人が宿題として家で練習をしたいと申し出た際に、学校用のiPadの貸し出しを行なっておらず、意欲的に練習したい生徒の要望に応えることができなかった。1人1台個人用の端末を持ち、なおかつネットワーク環境をしっかりと整備することで更に充実した学習になると考える。